

《第3回実行委員会開催される》

5月30日(日)午後6時よりエデュカス東京(市ヶ谷)に於いて第3回実行委員会が開催されました。[参加者:佐々木(す)、宇野、塚本、仙仁、乙津、田中、佐藤、北村、池田、橋本、藤森、小神、]が出席。

《討議内容》

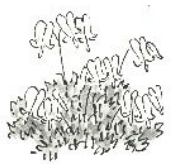
- ①アンケート回収状況について…実行委員会ニュース2号に同封した「アンケート用紙」について、5月30日現在の回収枚数は50枚です。
- ②ゲスト演奏者について…引き続き探す。会場(滝野川会館)周辺の小、中、高校生による演奏など、可能性があるか関係者に話しをしてみてもどうかとの意見が出されました。
- ③記念品について…出場参加者に対して、記念になる小物を出したらどうかとの意見が出され、試みとして出す方向で具体的に検討することになりました。
- ④その他活動について…伴奏講座は昨年同様一泊二日の講座を企画する方向で会場を押さえることになりました。期日は、年明けの1月末又は2月上旬を予定。
- ⑤次回実行委員会…6月20日(日)18:00より、エデュカス東京にて 以上

=====

実行委員会ニュース「1号」、『アコと人生』の中で『いとしのクレメンタイン』(雪山讃歌)について紹介したところ、中村健氏より「雪山讃歌」の前奏としてよく歌われていた思い出の歌があります。と手紙を頂いたので紹介します。

□現在あまり知られていない「雪山讃歌の前奏曲」のようです。文献は何もなく、私が昔覚えた記憶を頼りに歌の文章を書いて見ます。(多分、大正15年、旧制第三高等学校山岳部の部歌として作られたものと思われます。)

♪そんなにお前は なぜ嘆く ♪口笛吹いて気を晴らせ
草の褥(しとね)に 寝転んで一 うつつの夢を 見ていあれ一
私の云うことお聞きあれ くたびれ休めに 山を見て こまくさ: 坂本直行著
人の浮世の見栄を捨て 腹がへったらまた歩け 「わたしの草と木の絵本」



♪ICH will covold um mich habenn ich will covold um mich habenn. (株)茗溪堂より
晴れ渡りたる 青空 耀き満てる 雪原 遠き山連なり 葡萄色に 浮かぶ 丘を滑りて
谷間へ 木立巡りて 出湯へ 雪煙上げつつ いつか裾野に 着きぬ
風を(風を) 切りて(切りて) 滑る嬉しさ 我を(我を) 包む雪の柔らかか 今は(今は) あらず
(あらず) 山は(山は) 遙か(遙か) 冬山の楽しければ かくも切なく目に浮かぶ
♪雪よ岩よ 我らが宿り 俺たち 町には 住めないからに(俺たち 町には 住めないからに)
君の面影いずこそ 君の眼差し何処ぞ 吹雪走りて舞い 別れ別れとなりぬ 君と行きし
白きスロープ 真昼(真昼) 眠る(眠る) 温(ぬく)き 山小屋 今は あらず(あらず) 山は
(山は) 遙か(遙か) 雪山の 清らなれば かくも切なく 目に浮かぶ 山よ さよなら ご機嫌
よろしゅう また来るときには 笑っておくれ また来るときには 笑っておくれ

※うろ覚えで十分とは云えませんが、若い頃散々歌った懐かしい歌です。(二部合唱で) 中村 健